第39回「函館キャンプ」実施報告～新島襄の足跡を辿り、自分自身を見つめ直す旅～

新島襄は、青年期に侍の世に疑問を感じ、諸外国に触れたことがきっかけで、国禁を犯して脱国する。多様な参加者と共に脱国の地である北海道函館市を訪れることで、脱国当時21歳だった新島襄の思いや生き方に触れ、同志社で学ぶことの意味や自分自身を見つめ直す。そして、新しいことにチャレンジする意志や夢を明確化・言語化することが本プログラムの目的である。

第39回目を迎えた今回は９月４日（水）～７日（土）の日程で､学生12名･教職員６名の計18名が参加した。期待と緊張が混ざり合う中、プログラムがスタート。グループワークでは、学びや気付きを他者に共有し、また他者の違う意見や観点を知ることで考え方の幅が広がった。フィールドワークでは、事前知識と感覚・経験が結びつき、新島襄や函館の地への理解を深めることができた。校友会北海道支部（函館クラブ）との交流や、参加者同士の交流により、他者との繋がりの大切さを学ぶと共に、「同志社で学んでいる自分自身」を見つめ直すことに繋がった。

プログラム最終日には､新島襄の「行動力」に感銘を受けた参加者が今後の夢を全員の前で語った。参加者たちがこれからどのような足跡を残すのか、楽しみでならない。

（今出川校地学生支援課）

テュービンゲン大学にて第5回Doshisha Weekを開催

2024年９月26日（木）･27日（金）の２日間に亘り、第５回目となる Doshisha Week 2024をドイツ・テュービンゲン大学（以下、UT という。）の旧大学講堂（Alte Aura）にてハイブリッド形式で開催した。この行事は、UT における本学のプレゼンス向上を目的とし、過去、研究者同士の交流会、マンガや書を通じた学生交流会等があった。

今回の Doshisha Week 2024では、"The Challenge of Next-Generation Researchers” と題して、初めて両大学の若手研究者の交流にフォーカスした。本学からは同志社大学大学院博士後期課程次世代研究者挑戦的研究プロジェクト（SPRING）の支援対象である博士後期課程学生（神学研究科、経済学研究科、グローバル・スタディーズ研究科）の３人が現地に派遣され、また、ブリティッシュコロンビア大学に留学中の博士後期課程学生（心理学研究科）には、オンラインで参加いただくこととなった。

初日は、穐山洋子 ＥＵキャンパス支援室長の開会の挨拶に始まり､“Gender & Religion; Gender Studies” をテーマに、UT の Prof. Dr. Ingrid HOTZ-DAVIES の基調講演の後、両大学の若手研究者による研究発表とディスカッションが行われた。その後、初日の締めくくりとして、UT の Dr. Karin MOSER V. FILSECK より閉会の挨拶が述べられた。

研究発表に臨む本学学生

２日目は “Social Sciences (Economics-Fiscal Policy/Psychology)” をテーマに、経済学部 大垣昌夫特別客員教授による基調講演が行われ、その後、前日と同様に両大学の若手研究者による研究発表とディスカッションが行われた。２日目の締めくくりとして大垣教授による総括が行われ、穐山室長による閉会の挨拶で幕を閉じた。

総括を行う大垣特別客員教授

両日で延べ約75名（会場45名、オンライン30名）の参加があり、また Doshisha Week 終了後には UT の教員から本学学生への助言が行われたり、若手研究者同士の交流が活発に行われたりする等、実り多い研究交流となった。

最後となるが、登壇いただいた大垣特別客員教授、開催にあたりご尽力いただいた研究開発推進機構の関係者の皆様に、この場を借りて御礼申しあげる。

（EU キャンパス支援室）